



毎日、発明する会社
again!

2021年4月期

通期決算説明資料

フリービット株式会社

2021年6月11日

1. 2021年4月期 通期連結業績 . . . 3
2. 2021年4月期 通期セグメント別業績及び事業進捗 . . . 18
3. 2022年4月期 連結業績予想 . . . 26

略称について

略称	社名及び説明
FB	フリービット(株)=当社
FBG	フリービットグループ
ALC	(株)アルク 3Q期首に非連結化
DTI	(株)ドリーム・トレイン・インターネット=完全子会社
FBEPH	(株)フリービットEPARKヘルスケア (現：(株)くすりの窓口) 2Q末に非連結化
FBEPHG	フリービットEPARKヘルスケア (現：(株)くすりの窓口) グループ 2Q末に非連結化
FBI	フリービットインベストメント(株)=完全子会社
BI	(株)ベッコアメ・インターネット=完全子会社
FS	(株)フルスピード=東証二部上場の子会社
FSG	フルスピードグループ
FI	(株)フォーイット=(株)フルスピードの完全子会社
CR	(株)クライド=(株)フルスピードの完全子会社

略称	社名及び説明
FSL	(株)フルスピードリンク=(株)フルスピードの子会社
GP	(株)ギガプライズ=名証セントレックス上場の子会社
GPG	ギガプライズグループ
FM	(株)フォーメンバーズ 2Q末に非連結化
SV	(株)ソフト・ボランチ=(株)ギガプライズの完全子会社
GT	(株)ギガテック=(株)ギガプライズの完全子会社

略称	セグメント名
Infra	インフラテック事業
RET	不動産テック事業
ADT	アドテック事業
HT	ヘルステック事業
ET	エドテック事業

1. 2021年4月期 通期連結業績

2Q期末にFBEPHG及びFM、3Q期首にALCをオフバランス化 DTI 決算期を3月から4月に変更



(単位：百万円)	21年04期 通期	20年04期 通期	増減額	増減率
売上高	52,009	55,295	△3,285	△5.9%
EBITDA	4,194	4,638	△443	△9.6%
営業利益	3,403	2,587	+815	31.5%
経常利益	3,661	2,481	+1,180	47.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,586	△619	+2,206	—
1株当たり純利益	74円06銭	△27円93銭	+101円99銭	—

2021年4月期通期連結業績は、サービス需要増に伴うインターネットインフラカテゴリの利益増及び事業再編によるオフバランス等により、戦略投資実施も堅調に推移

- ・売上高：サービス需要増によりインターネットインフラカテゴリが堅調に推移も、オフバランス化により前期比5.9%減
- ・営業利益：インターネットインフラカテゴリ利益増及びオフバランス事業の再編等による利益改善により、戦略投資実施も前期比31.5%増
- ・経常利益：営業利益増により前期比47.6%増
- ・親会社株主に帰属する当期純利益：経常利益増等により前期比2,206百万円増

FOCUS/戦略投資

SiLK VISION 2024に向けて2021年4月期を「トランスフォーメーション・ターム」と位置づけ企業グループとしてのBCP（事業存続計画）を見直すと共に、破壊的技術の到来や各種規制強化といった外部要因を鑑み、中長期的な視点で継続成長を目指し先行投資を実施



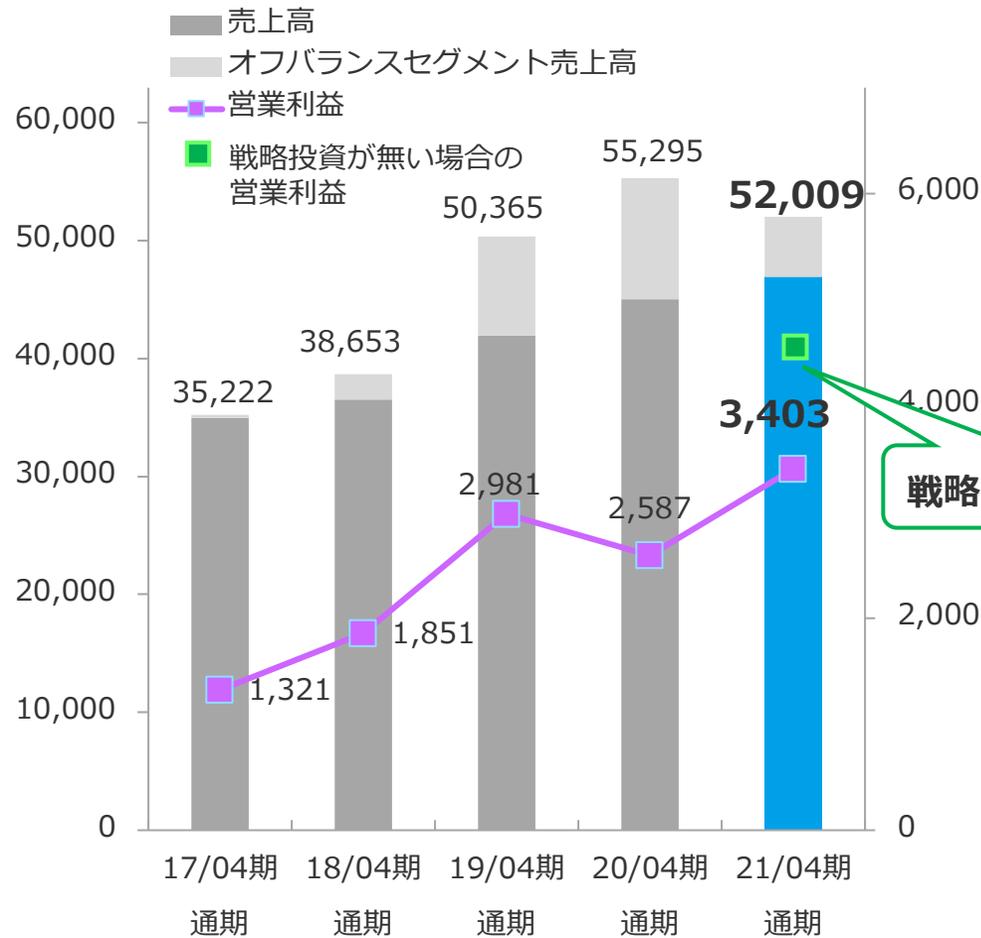
1,970百万円 (うち、**営業内1,058百万円**)

◇2021.06.08 「2021年4月期通期業績予想の修正に伴う補足説明資料」より引用

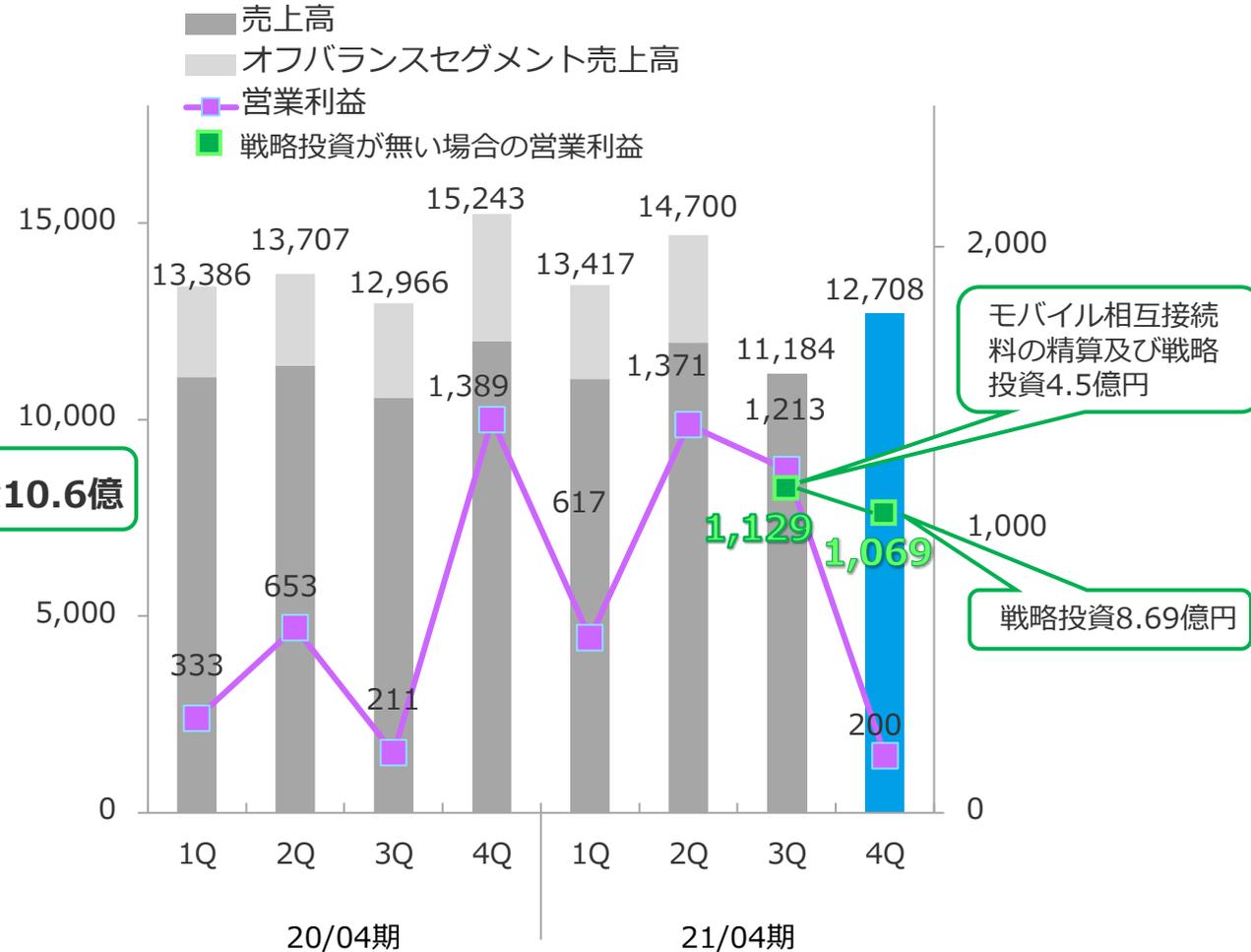
インターネットインフラカテゴリー利益増及び事業の再編によるオフバランス等により、戦略投資実施も堅調に推移

(単位：百万円)

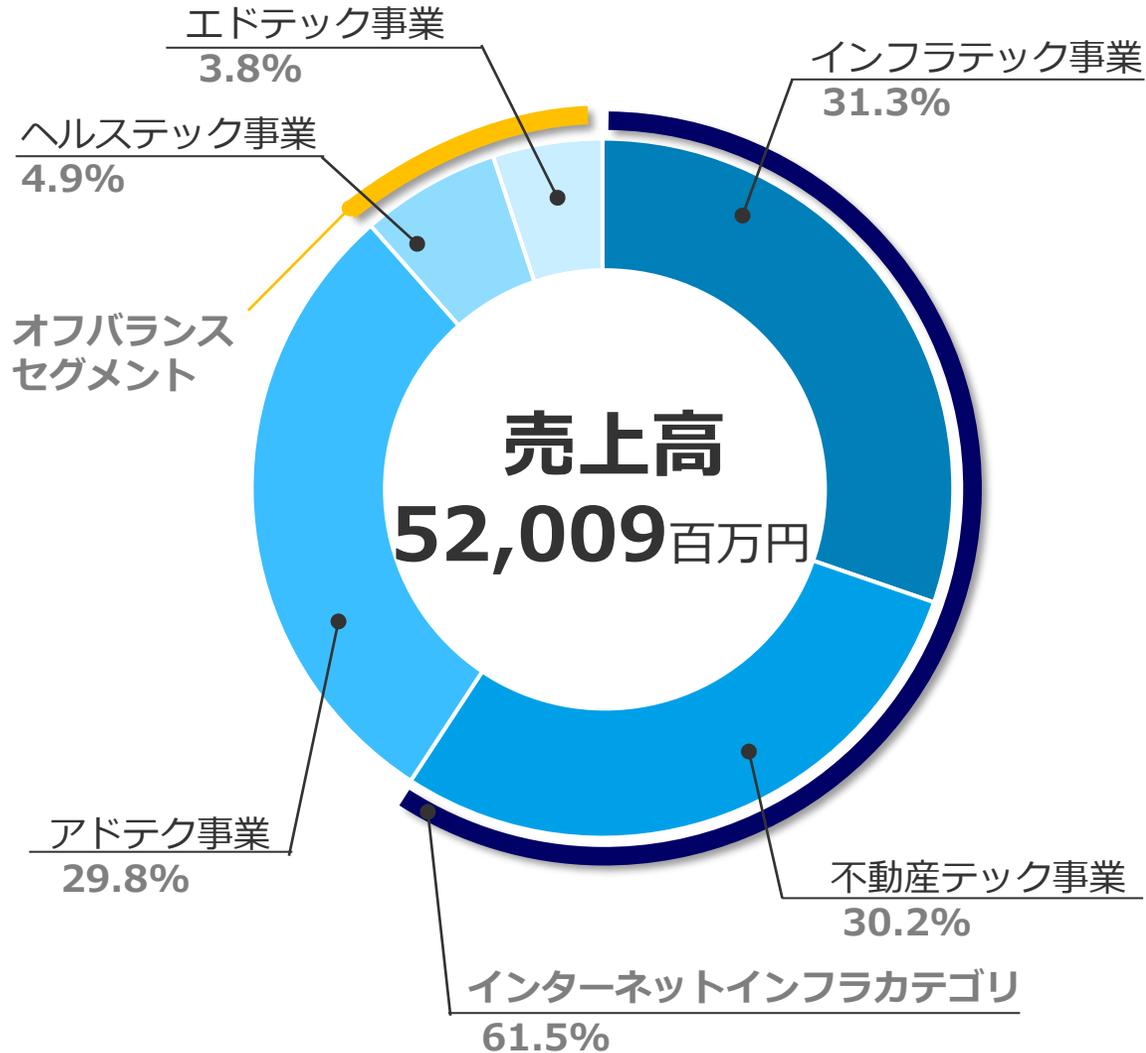
通期実績推移



直近の四半期実績推移



サービス需要増によりインターネットインフラカテゴリは増収



売上高	セグメント損益
インターネットインフラカテゴリ	
16,421 百万円 YoY +4.6%	436 百万円※ YoY △49.1%
不動産テック事業	
15,869 百万円 YoY +16.3%	2,160 百万円 YoY +59.2%
アドテク事業	
15,630 百万円 YoY △8.5%	743 百万円 YoY △14.9%
ヘルステック事業	
2,550 百万円	305 百万円
エドテック事業	
1,992 百万円	△240 百万円

戦略投資10.6億円の影響含む

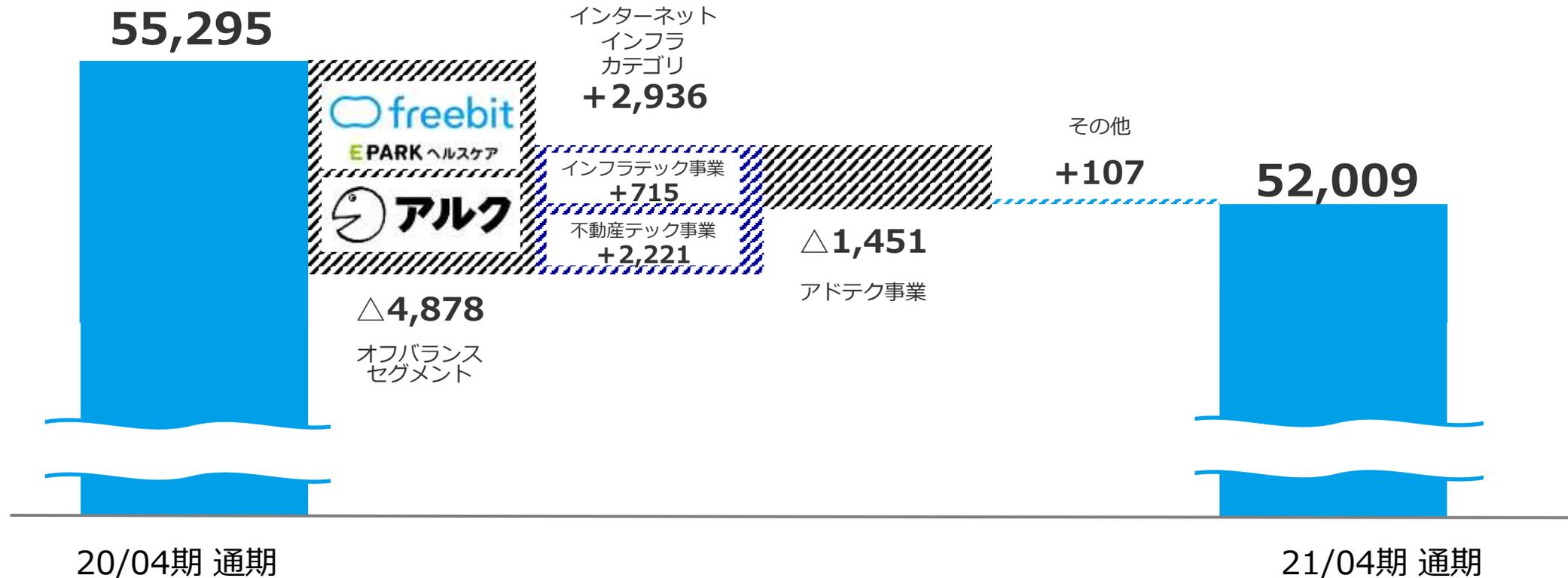
インターネットインフラカテゴリ

オフバランスセグメント

サービス需要増によりインターネットインフラカテゴリは堅調に推移も、 オフバランス化により前期比5.9%減

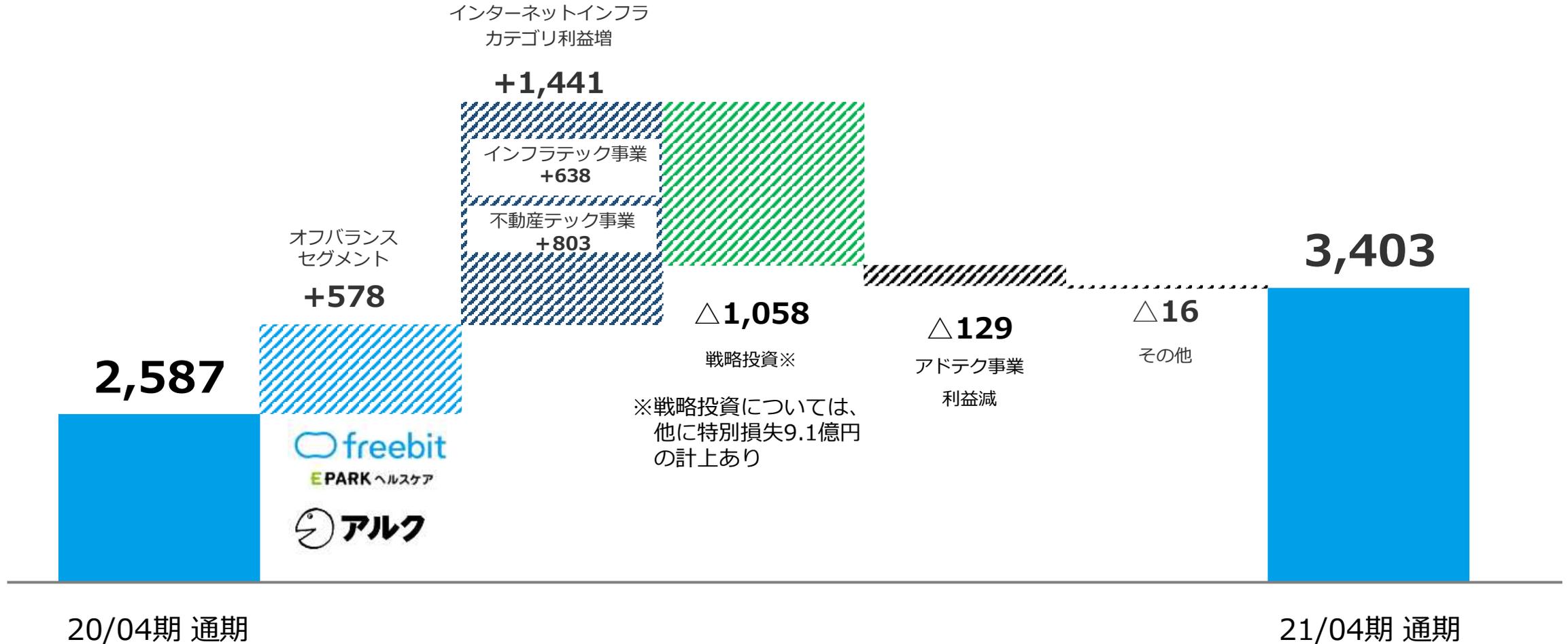
アドテク事業は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減収も、持ち直し基調

(単位：百万円)



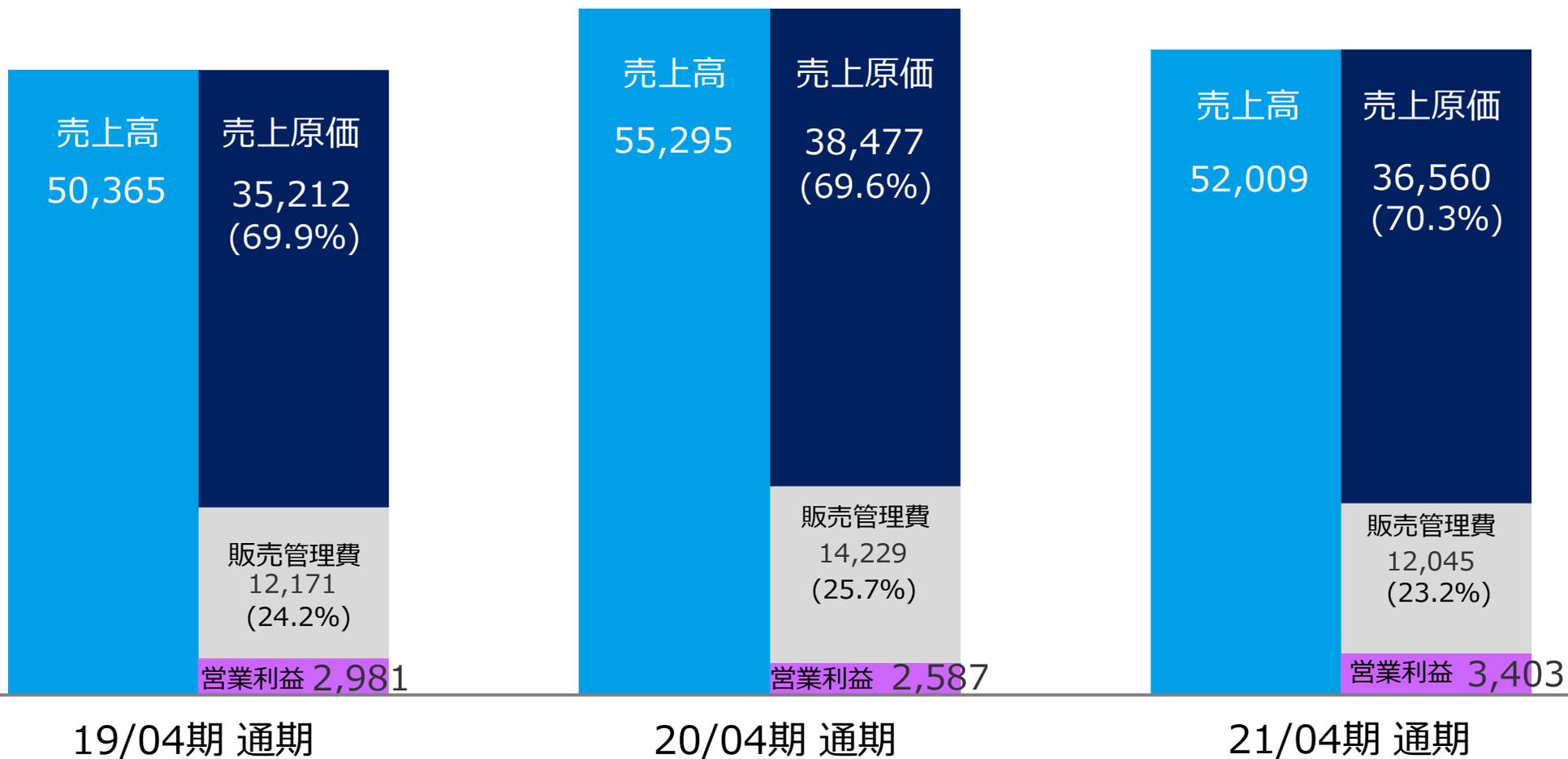
インターネットインフラカテゴリ利益増及びオフバランス化により、 前期比31.5%増

(単位：百万円)



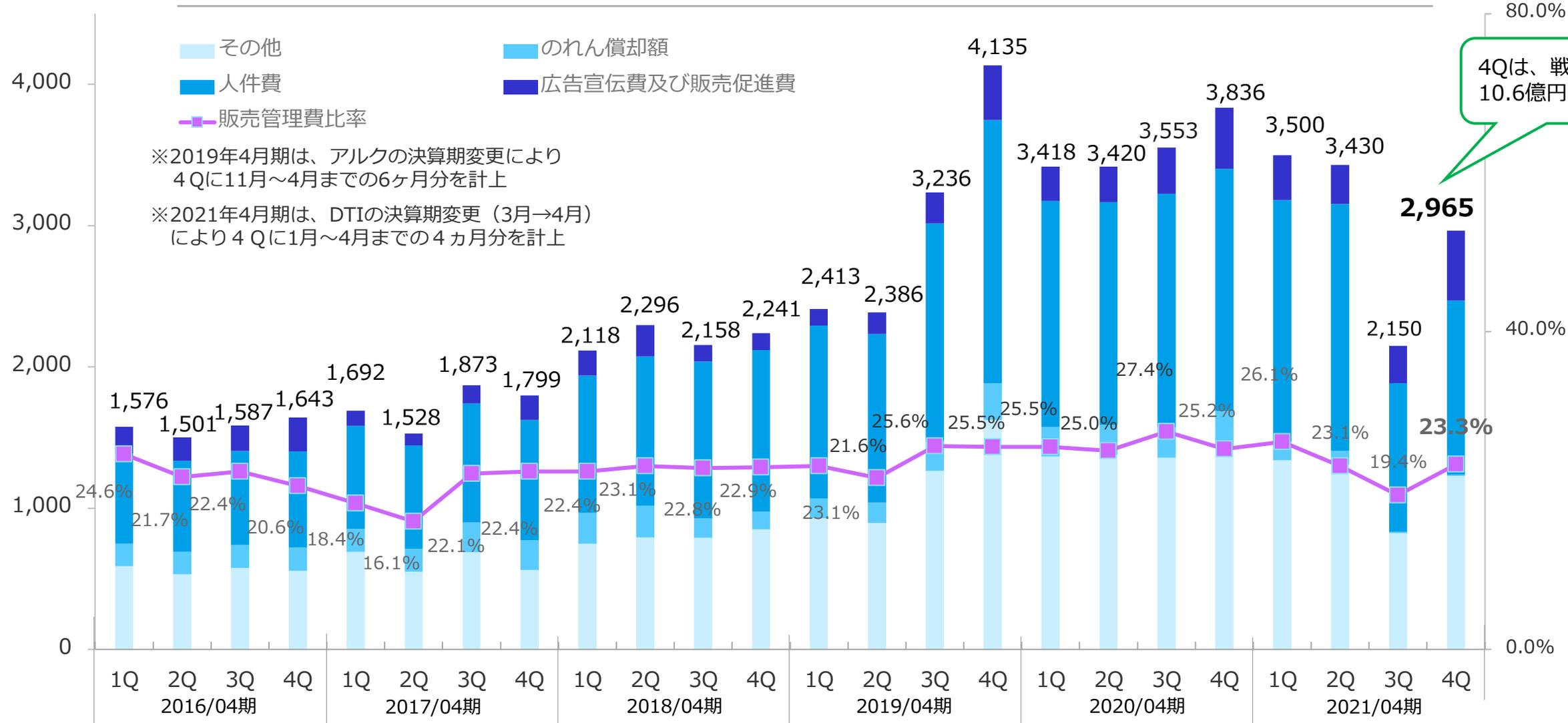
オフバランス化による売上減及び戦略投資実施も、インターネットインフラカテゴリのサービス需要増により利益は増加

(単位：百万円)



オフバランス化により減少も、4Qは戦略投資の実施及びDTIの決算期変更に伴う13カ月決算により販管費増

(単位：百万円)



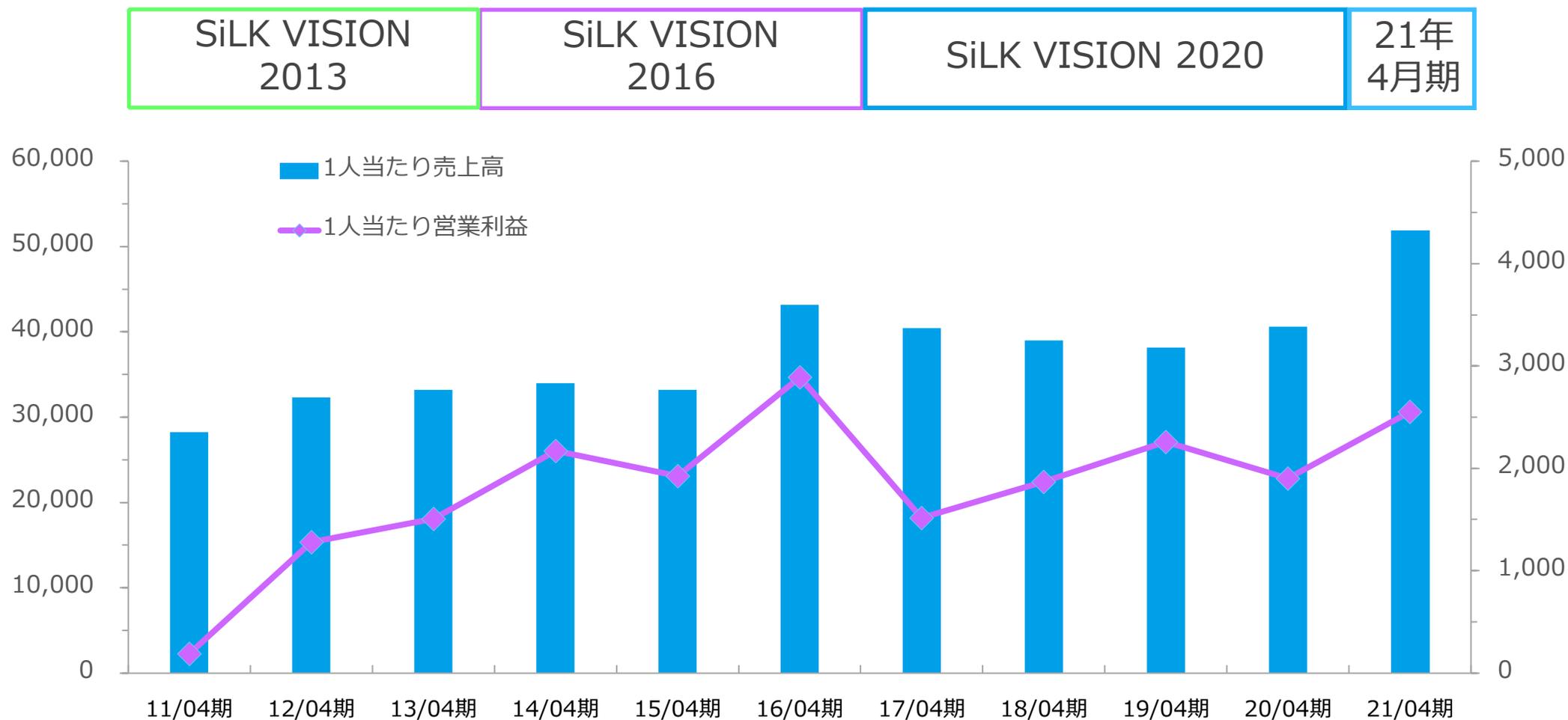
4Qは、戦略投資
10.6億円を含む

※2019年4月期は、アルクの決算期変更により
4Qに11月～4月までの6ヶ月分を計上

※2021年4月期は、DTIの決算期変更（3月→4月）
により4Qに1月～4月までの4ヶ月分を計上

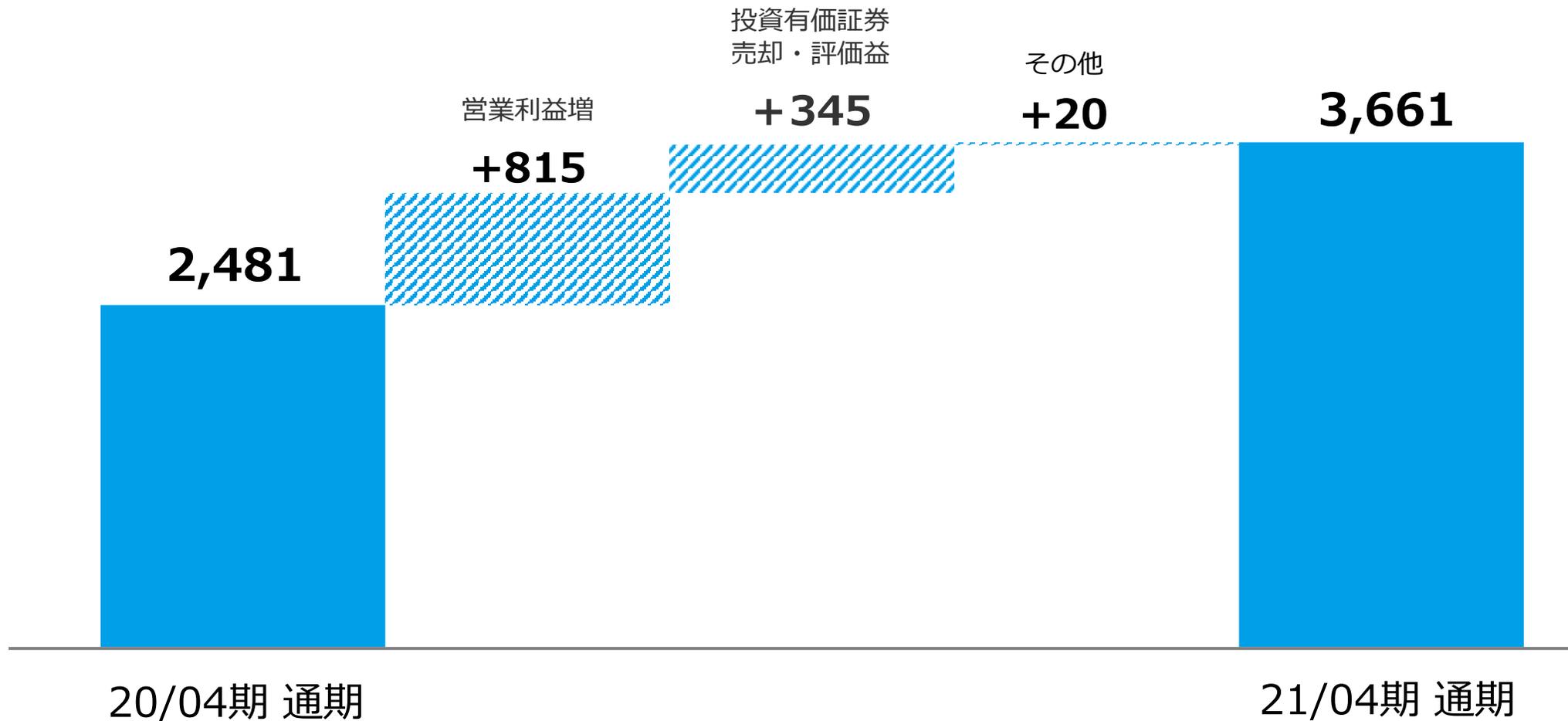
オフバランス化及び生産性の向上により、1人当たり売上高・営業利益が改善

(単位：千円)



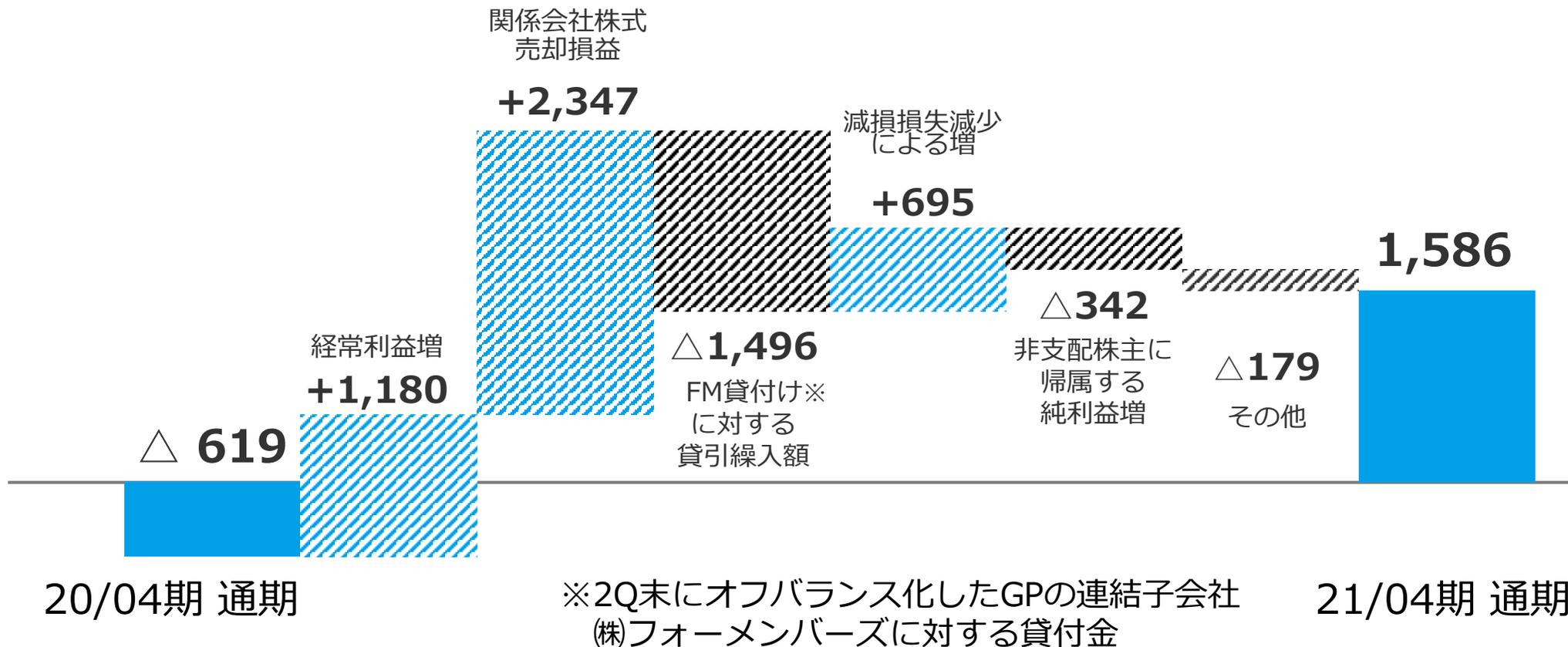
営業利益増及び投資有価証券の売却益により、前期比47.6%増

(単位：百万円)



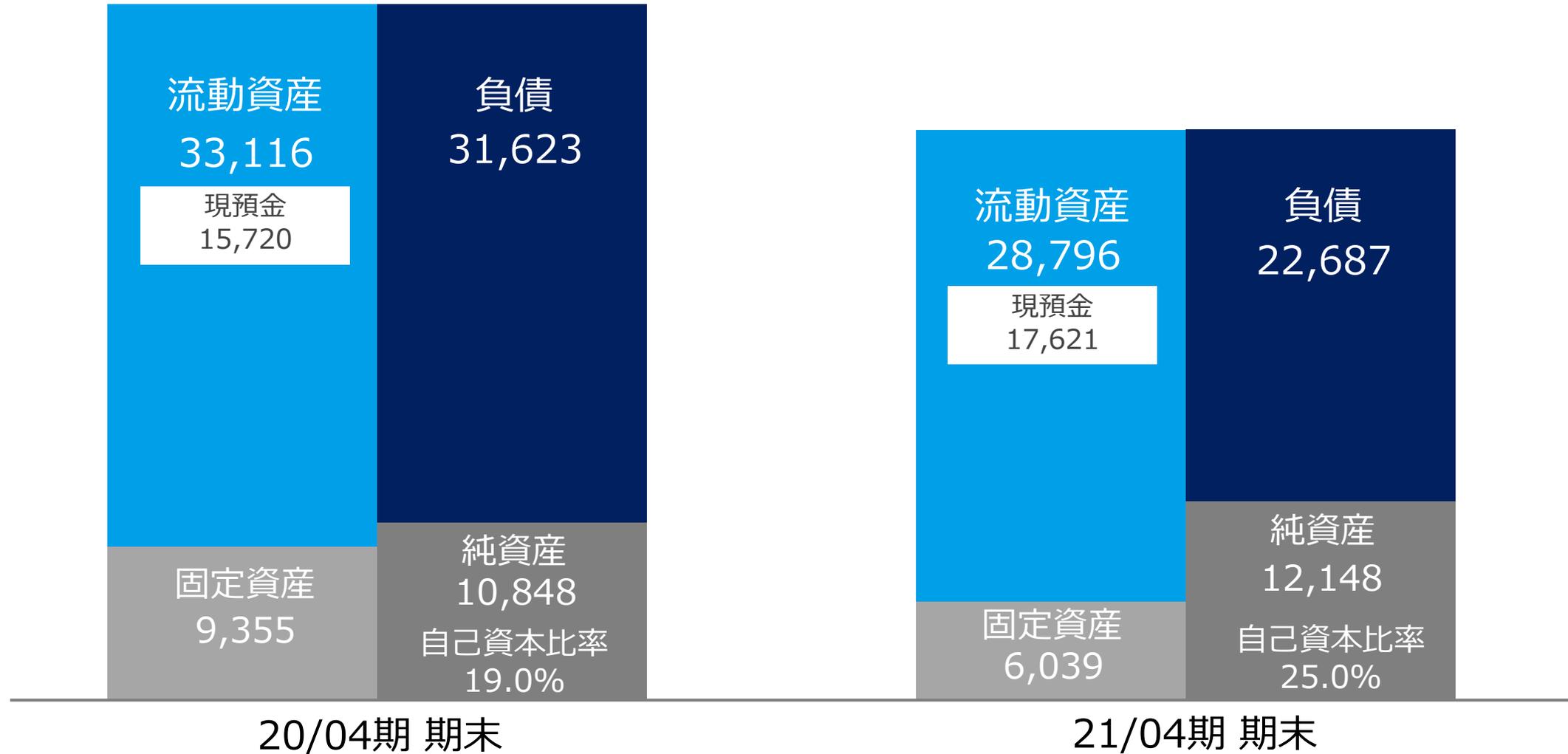
経常利益増及びオフバランス化による子会社株式売却により、 前年同期比2,206百万円増

(単位：百万円)



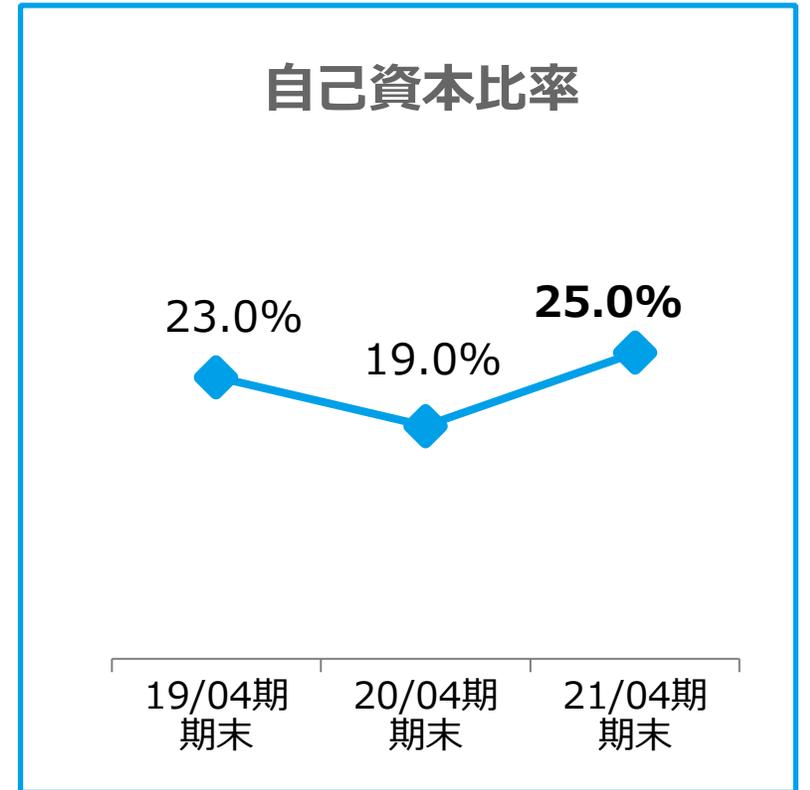
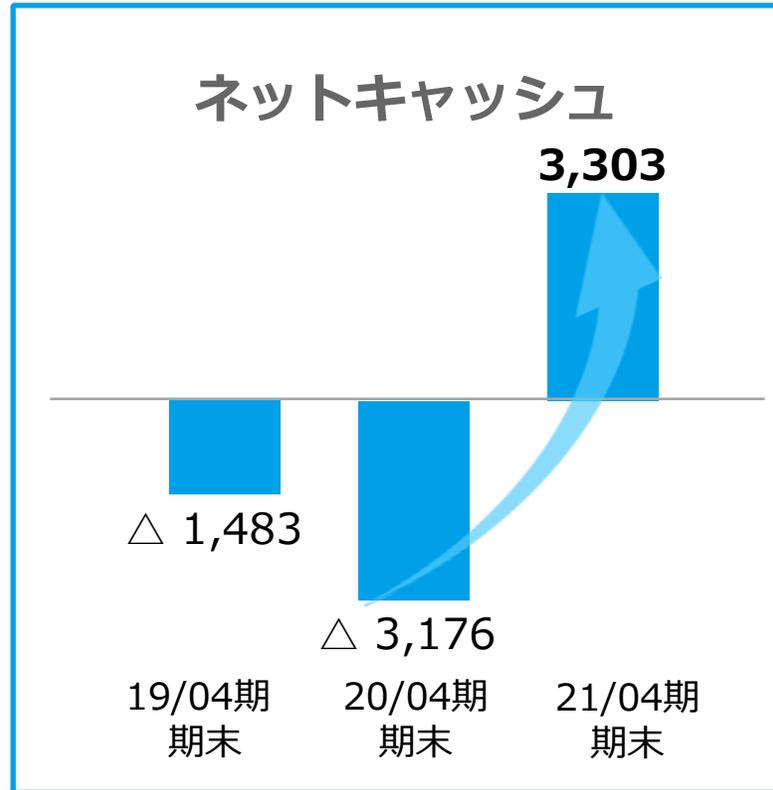
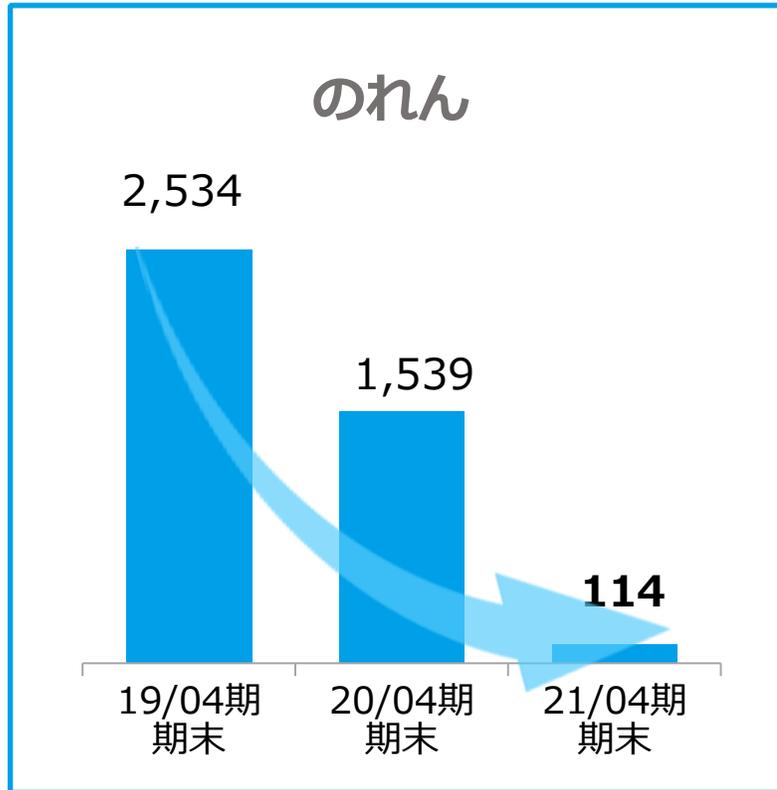
オフバランス化及び利益の増加により自己資本比率は25.0%に増加

(単位：百万円)



オフバランス化によりのれんは減少し、ネットキャッシュ及び自己資本比率は大幅に増加

(単位：百万円)

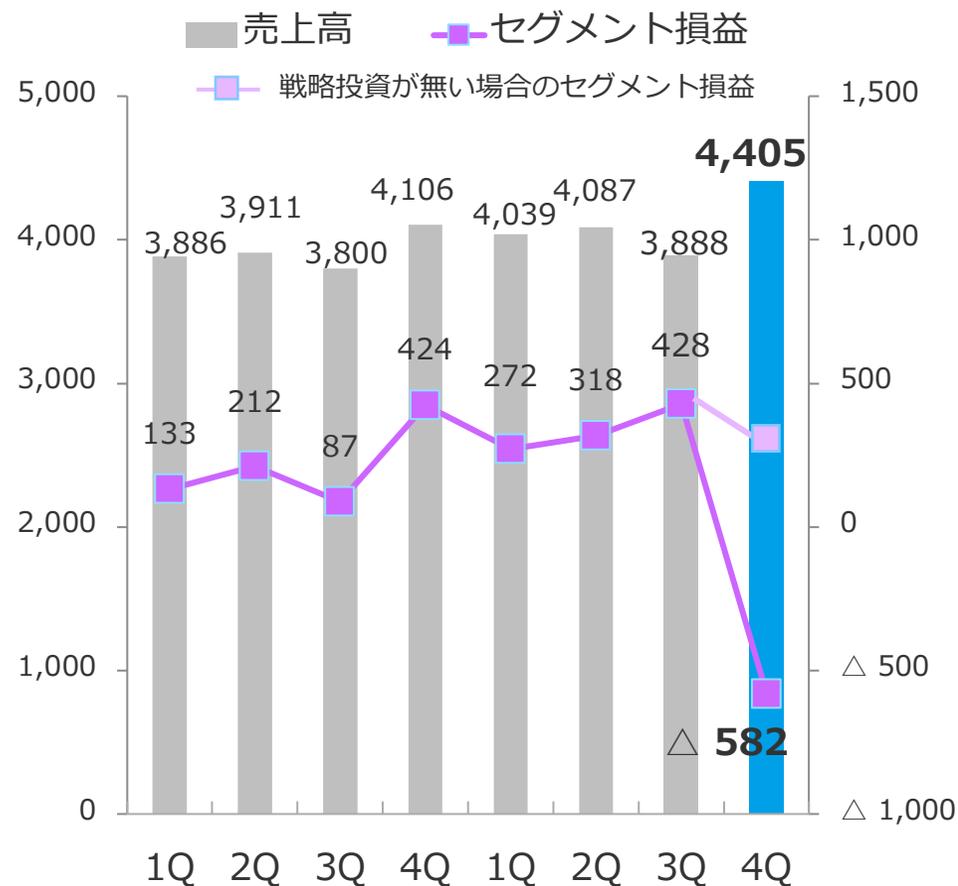


2. 2021年4月期 通期セグメント別業績及び事業進捗

前期比売上高4.6%増、戦略投資1,058百万円の実施によってセグメント利益49.1%減

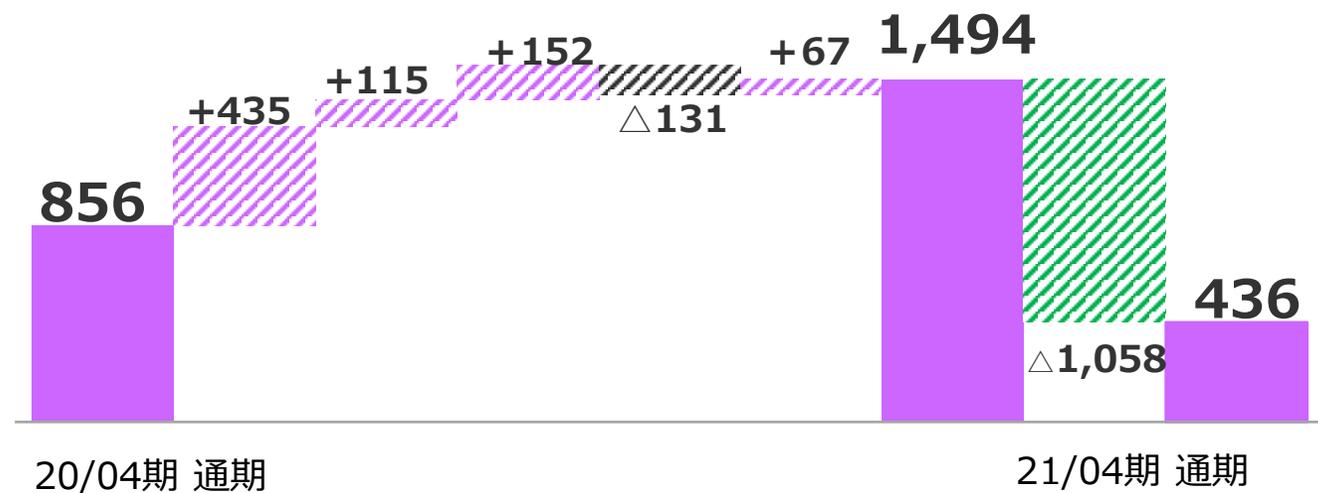
(単位：百万円)

売上高・セグメント損益



セグメント損益前年同期比差異分析

- +435** モバイル需要増による利益増等
- +115** 固定費減ならびにコラボ系売上増
- +152** 投資事業分野の再編等による利益改善
- Δ **131** 固定網利益減等
- +67** その他
- Δ **1,058** 戦略投資

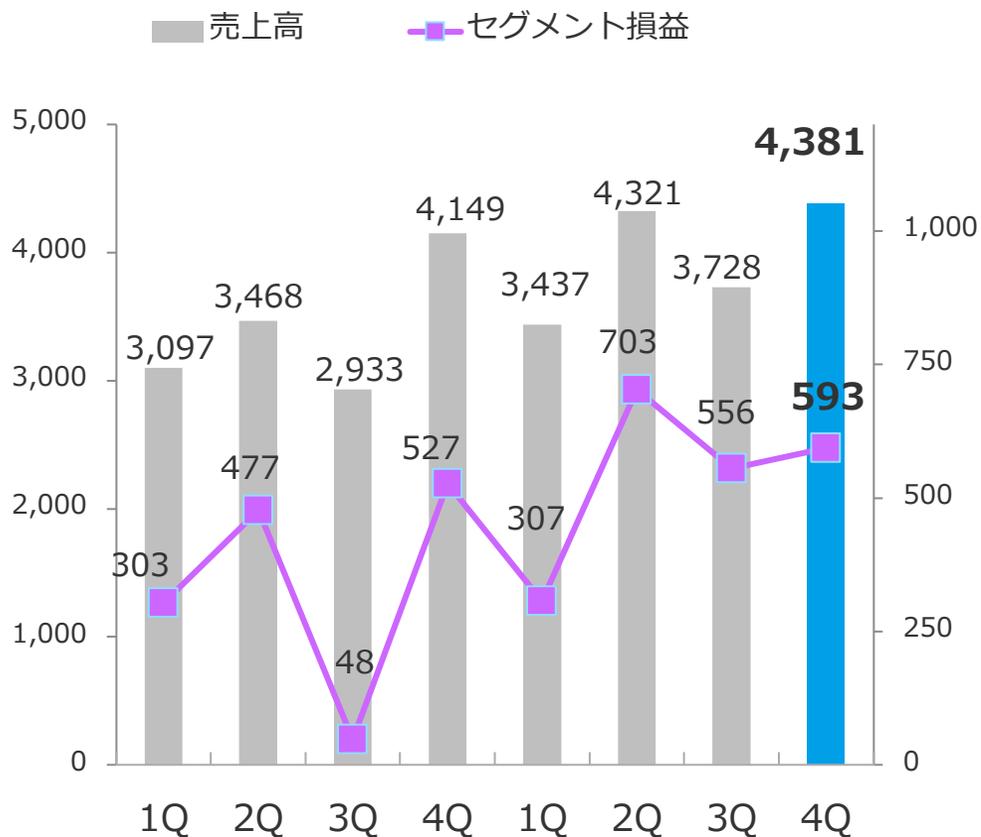


前期比 売上高16.3%増、セグメント利益59.2%増

新型コロナウイルス感染症拡大下においても感染防止に努め、堅実に工事を遂行したことにより、前期比増収増益で推移

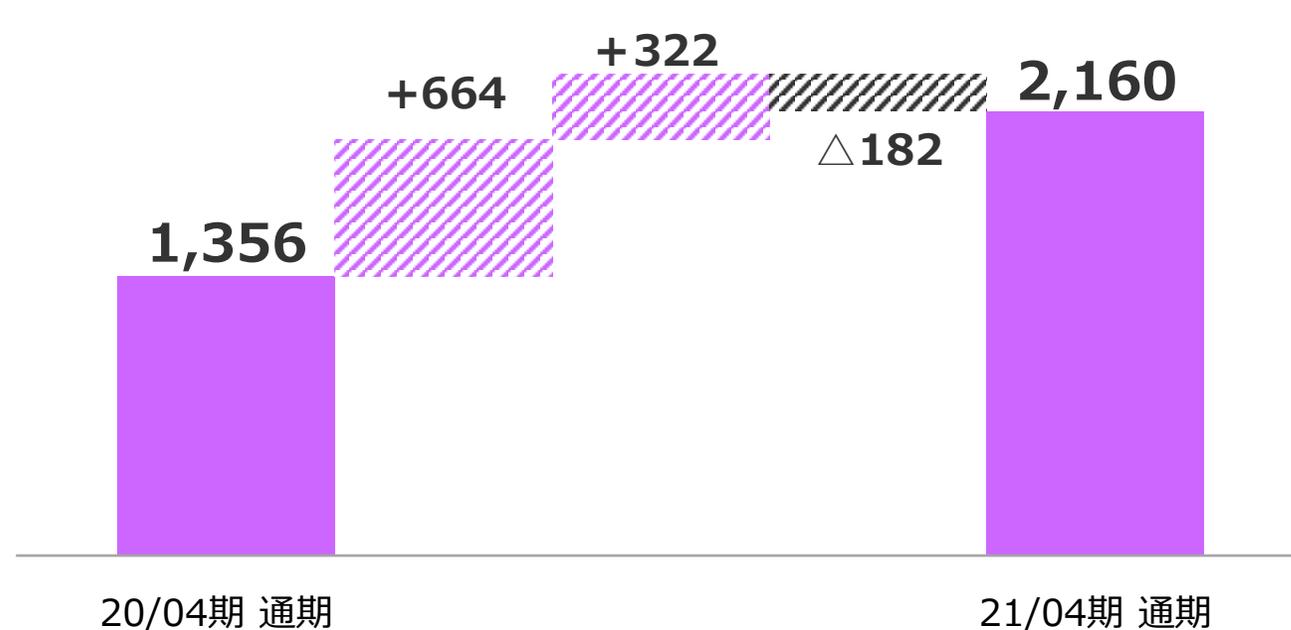
(単位：百万円)

売上高・セグメント損益

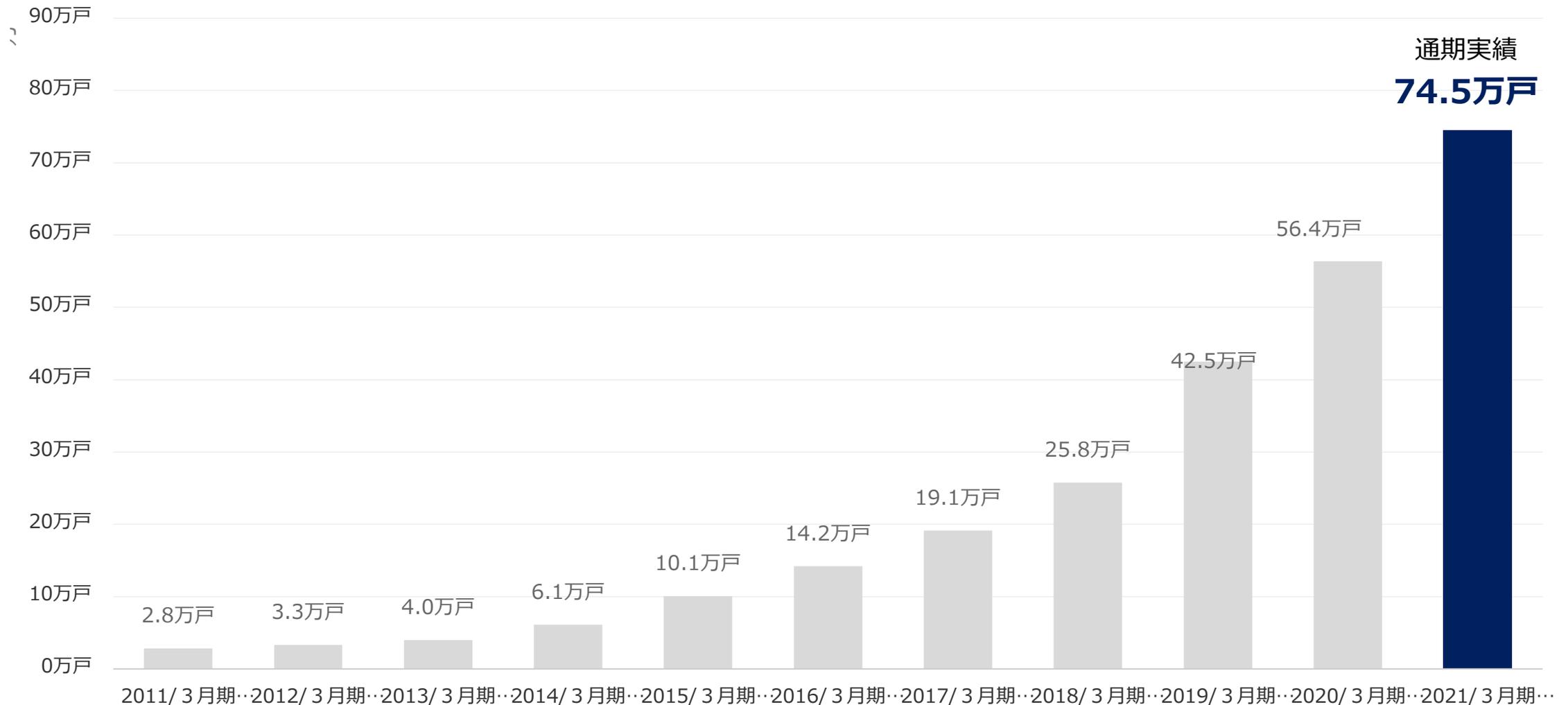


セグメント損益前年同期比差異分析

- +664** インフラ領域売上増に伴う粗利増等
- +322** FMの連結範囲からの除外による利益改善等
- △182** 人件費増等



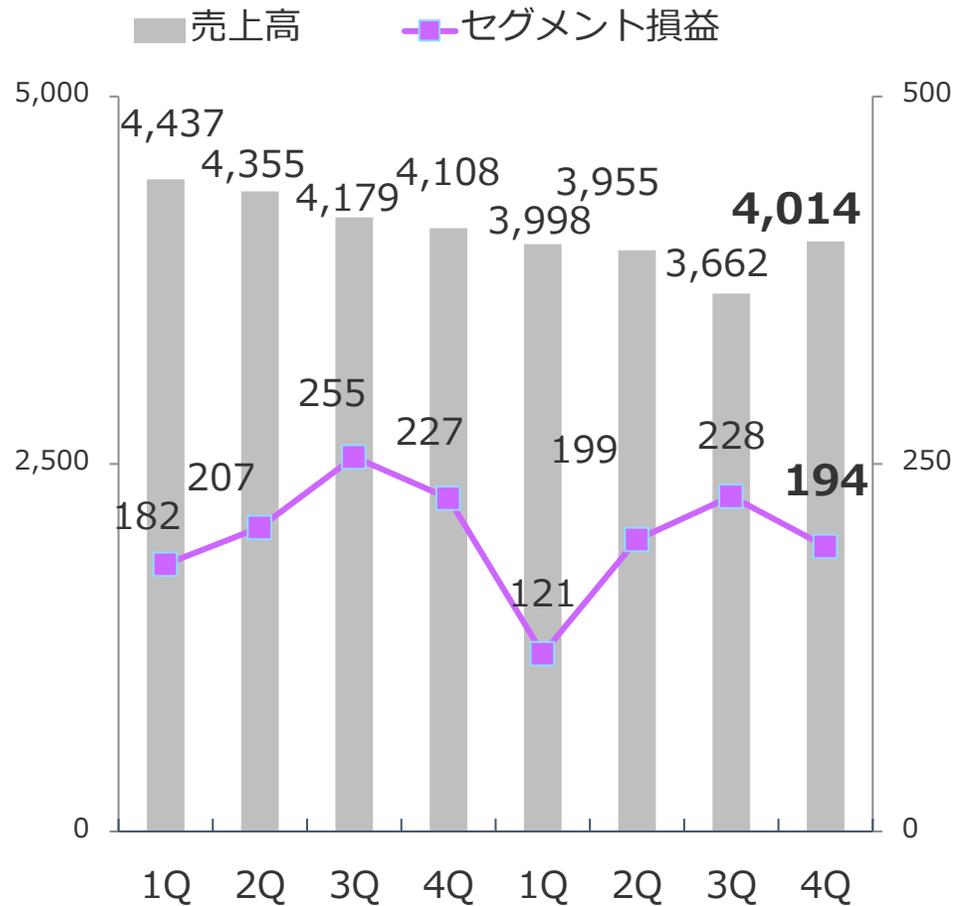
累計提供戸数は、前期末（56.4万戸）比18.0万戸増の74.5万戸を達成
来期は前期末比15.5万戸増の90.0万戸を目指す



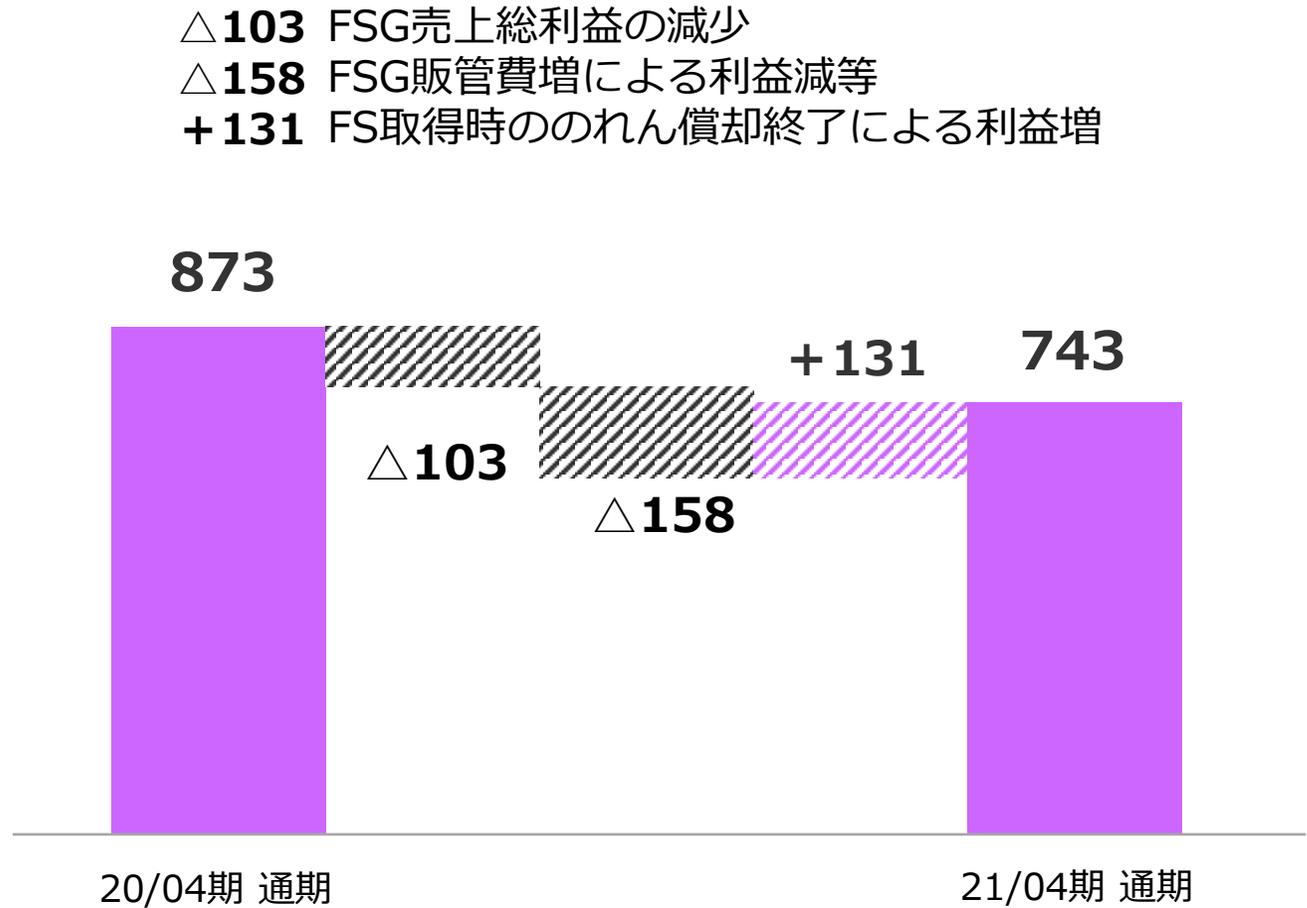
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により前期比減収減益も利益率の改善及び戦略投資の積み残しにより計画比では利益上振れ

(単位：百万円)

売上高・セグメント損益



セグメント損益前年同期比差異分析



モバイル革命

- 「freebit MVNO Pack」
 - ー 通話料金の低価格での提供を可能とする新音声通話サービスを発表
 - ー AIによって様々な最適化が可能なOEM向け次世代メッセージコンポーネントを発表
- トーンモバイル
 - ー TONE SIM 4.0。世界初、iPhoneでAIによる自撮り被害防止を実現
 - ー 家族をAIと見守る独自メッセージ「Oneメッセージ」など、AI機能/基礎性能が大幅に向上した「TONE e21」を発表

生活革命

(生活 / 医療 / 高齢者)

- トーンモバイル
 - ー TONE SIM 4.0。世界初、iPhoneでAIによる自撮り被害防止を実現
 - ー 家族をAIと見守る独自メッセージ「Oneメッセージ」など、AI機能/基礎性能が大幅に向上した「TONE e21」を発表
- afb
 - ー 日本最大級インフルエンサーネットワークとの独自マッチングサービスプラットフォームの提供
- スマートポール事業
 - ー ICT機能を搭載した街路灯を活用し、まち全体の安心・安全を提供する防犯ネットワークの構築及び持続的なまちの成長をサポートする新しい街路灯モデルを共同で開発

生産革命 (MakerMovement)

■ 中期戦略にてご説明

AI機能/基礎性能が大幅に向上した「TONE e21」販売開始

TONE e21



“やさしいAI”こと「TONE AI」を構成する7つの要素“ヘプタゴン”を軸に、AIを徹底的に利用者の安心・安全に活用する独自のアプローチで、ハードウェアだけでなく、サービス、見守り機能など抜本的なアップデートを実施

発表記者会見には、新型コロナ対策で大幅に人数を絞りながらも主要メディア15名が出席。テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」では、各キャリアが価格競争を繰り返している中、「独自AIで見守り機能」搭載の新端末を発売として、差別化をはかる経済ニュースとして取り上げられる。

“pre” 5G

with Trusted Internet



ワールドビジネスサテライト収録風景

コロナ禍でも安心・安全な新常態働き方DXを提案

ソフトウェア、オフィス設計を組み合わせたDX手法による、新常態の働き方をサポートする、オフィス環境に関するコンサルティング、ソフトウェアの開発提供、各施工業者によるオフィス設計をご提案



既存オフィス



SaveYou



ソフトウェアで状況に応じて
オフィス環境が進化する

新常態オフィス



当社の取り組みやDX手法による新常態オフィスの提案がNHK「ニュースセブン」に取り上げられました

3. 2022年4月期 通期連結業績予想

2021/4

2022/4

2023/4

2024/4

SILK VISION
2024

from The Garage again

SiLK Investment Policy (DX+オンオフ検討)

オフバランス
PARK S&WT

freebit
毎日、発明する会社

DX投資
Data統合

DX投資(一部前期繰越プロジェクト)
新事業化投資

GIGA PRIZE

Full Speed
Ad Technology & Marketing Company

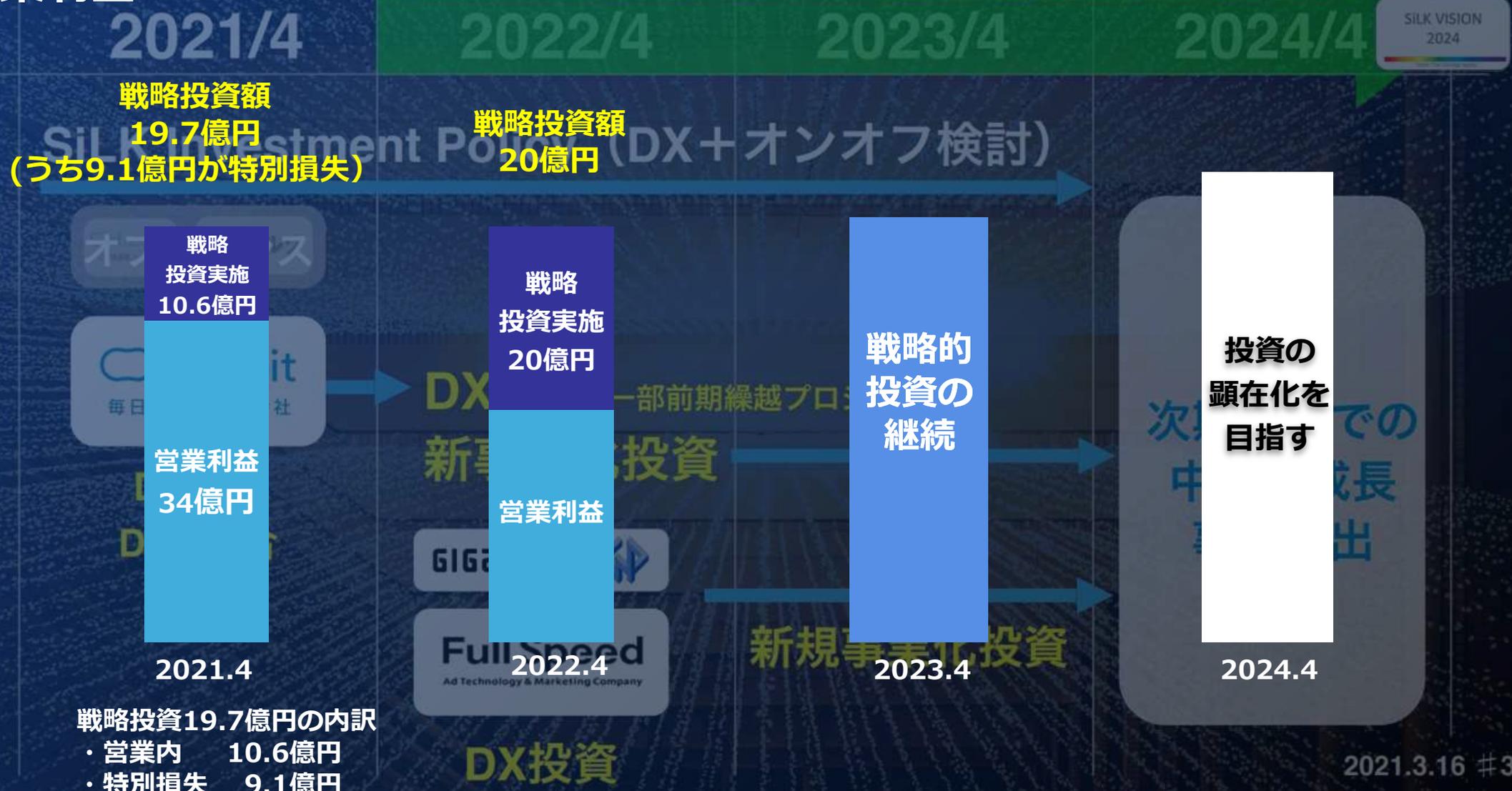
DX投資

新規事業化投資

次期中期での
中心的成長
事業創出

2021.3.16 #3

■ 営業利益



（単位：百万円）	22年04期 新基準
売上高	43,000
営業利益	2,500
経常利益	2,350
親会社株主に帰属する当期純利益	600

当社グループは、“pre 5G”をキーワードに事業拡大を行っていくことを目指し、『SiLK VISION 2024』の最終年度である2024年4月期での実現に向けて戦略投資を継続的に行っていくことを方針としています。

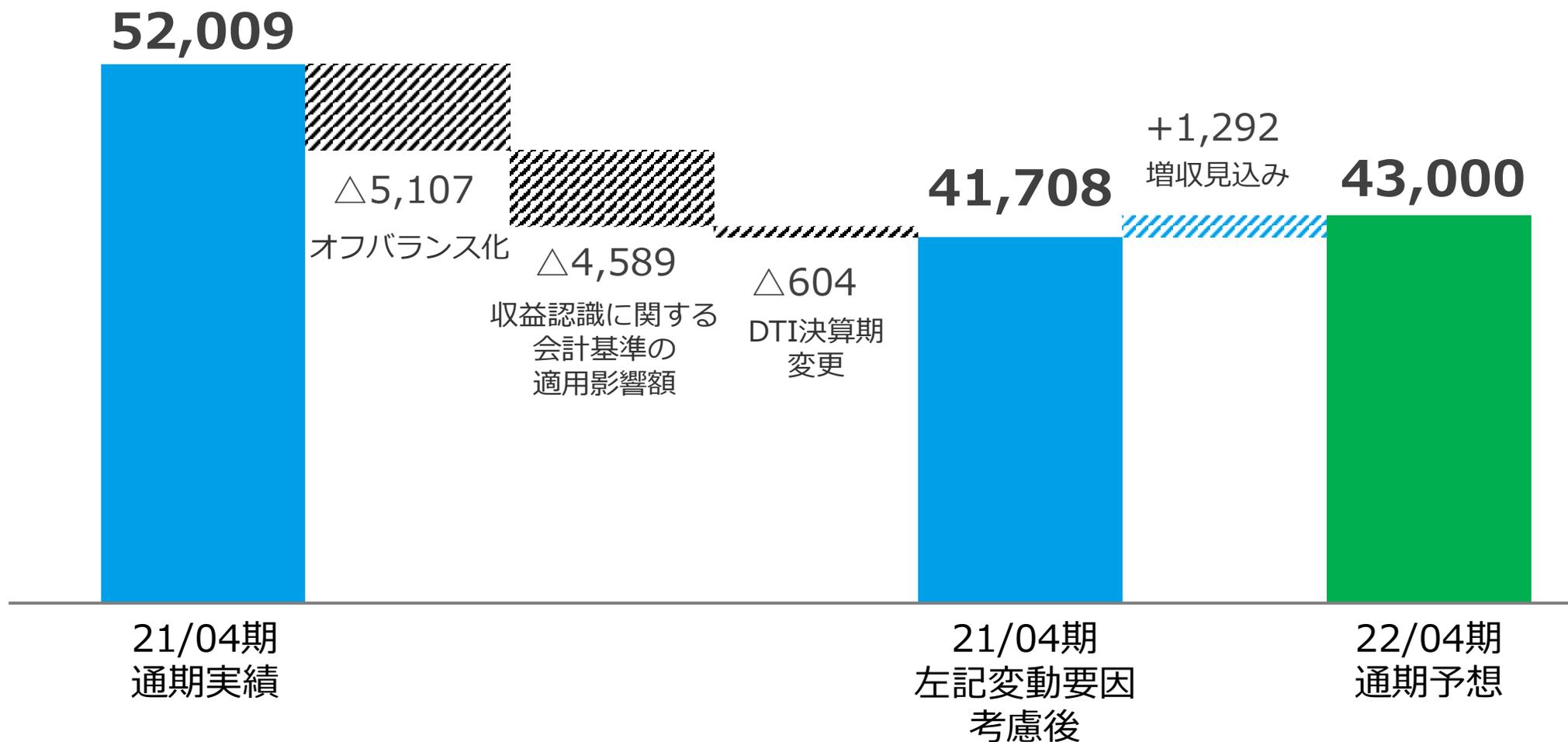
戦略投資については、「モバイル革命」領域、「生活革命」領域、「生産革命」領域といった将来に向けた重点領域に対し、2022年4月期においては2021年4月期から跨ぐ形での戦略投資未実施分も含めた総額20億円の戦略投資枠を設け、DX投資、新事業化投資を積極的に実施していく予定です。

なお、2022年4月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

また、新中期経営計画『SiLK VISION 2024』に関しましては、7月に公表予定です。

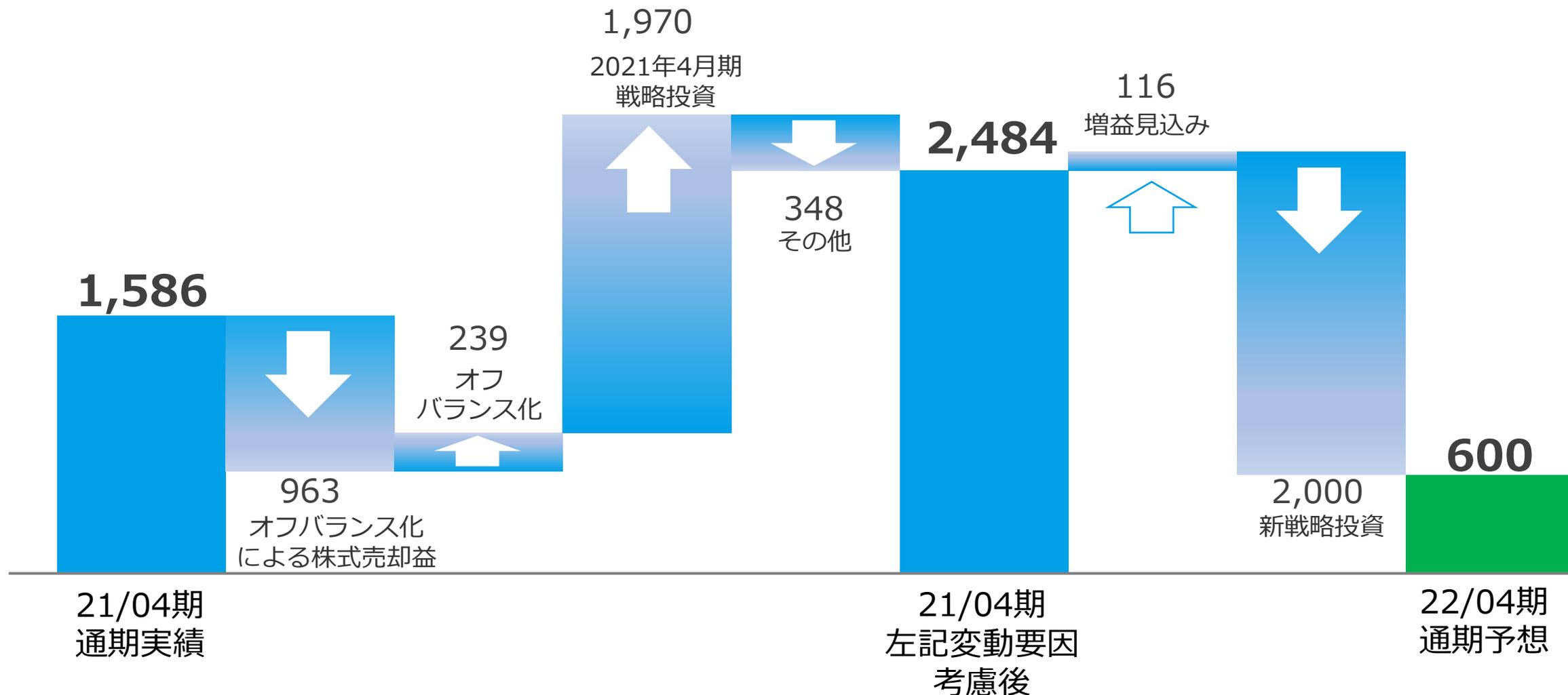
変動要因考慮後の21年4月期実績比3.1%増

(単位：百万円)



21年4月期末実施分3.2億円を含む20億円の戦略投資を22年4月期実施予定

(単位：百万円)



本資料に記載されている当社の予想、見通し、目標、計画、戦略等の将来に関する記述は、本資料作成の時点で当社が合理的であると判断する情報に基づき、一定の前提（仮定）を用いており、種々の要因により、実際の業績はこれらの予想・目標等と大きく異なる可能性があります。本資料は、当社の事業戦略の説明資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

＜IR及び本資料に関するお問い合わせ＞

フリービット株式会社
グループ経営企画本部 IR担当
Email freebit-ir@freebit.net
WEB <https://freebit.com/>

SILK VISION 2024

SILK VISION
2024



from The Garage again.

7月下旬発表予定



毎日、発明する会社

※ すべてのブランド、製品名、会社名、商標、サービスマークは各社に権利が帰属します。